



令和元年度 卒塾式にあたり

## 松下政経塾 塾長 佐野 尚見

皆さん、おはようございます。本来であれば、多くのご来賓の皆様からご祝辞や励ましのお言葉を賜りながら、記念すべき卒塾式を執り行う予定でありました。

しかし新型コロナウイルス感染拡大という予期せざる状況下、塾生と職員のみによる卒塾式とさせて頂きましたこと、残念ではあります。ご理解を頂きたいと存じます。

まずもって、卒塾生の皆さん、晴れてこの日を迎えられること、誠におめでとうございます。先程、松下理事長よりお電話があり、皆さんへの祝意とともに、『この様な状況であるからこそ、日本や社会の為に頑張って下さい』とお言葉がありましたので、お伝えをさせていただきます。

さて、皆さんは今、どんな気持ちで卒塾式を迎えられているのでしょうか。この塾で学んだ4年間は、決して平坦な道のりばかりではなかったはずです。

皆さんはまず、卓越した実業家であり、国の将来に思いを馳せた思想家でもあった塾主松下幸之助の『ものの見方・考え方』、とりわけ事を成すにあたりリーダーに求められる“理念”の大切さを学んできました。勿論“理念”だけでは、国家の経営や地域の経営、企業やNPO等々の経営は成り立ちません。理念の実現の為には、その任にあたる指導者の優れたリーダーシップが必要であることは言うまでもありません。塾主も、リーダーシップは数々の現場体験により磨かれてゆくものであると述べておられます。

皆さんは、松下政経塾の基本方針である「自修自得」「現地現場」の方針のもと、自ら立てた“かくあるべし”という仮説をもって、その証を求めて国内・海外の多くの現場に足を運びました。

研修とはいえ、そこは真剣勝負の場であり、現場体験の厳しさを痛感したはずであります。この厳しさや戸惑いを覚えたギャップこそ、皆さんの成長エネルギーの源泉であり、気が付かないうちに身に付いた“見えざる資産”になっているはずです。また、お互いに個性を尊重しつつ議論を交わし、理想を語り合った寮生活も皆さんの今後の人生において何物にも替え難い思い出となっていることでしょう。

皆さんは、いよいよ明日から、磨いてこられた“志”実現の為に各々の道を歩むこととなります。人は、人生において何度か大きな決断をしなくてはならない時があります。その決断は、社会が皆さんに求めているものであり、松下政経塾で学んだ者にとっては、宿命的なものであるかも知れません。

大いなる“志”を持ってば持つ程、決断の壁は高く、厚いものだと思います。

皆さんの先輩達が自らを信じて決断をし、社会に飛び出して行った様に、皆さんも勇気を持って一歩前に踏み出して行って頂きたいと強く願っています。

塾主『道をひらく』の中でこの様に述べておられます。

『進むもよし、とどまるもよし。要はまず決断を下すことである。みずから断を下すことである。それが最善の道であるかどうかは、神ならぬ身、はかり知れないものがあるにしても、断を下さないことが、自他共に好ましくないことだけは明らかである。』

最後になりますが、皆さんはこの4年間の研修を通じて実に多くの方々のお世話になりました。その方々に対して決して“感謝”の念を忘れないでください。同時に多くの“縁”も頂いたはずです。そこで頂いた“縁”を大切にしてください。ご活躍を心よりお祈りいたしております。

新型コロナウイルス感染症対策のため、3月14日の卒塾式は塾生・職員のみでの開催となりました。決意を胸に塾を巣立つ6名の卒塾生達に塾員の皆様からはビデオメッセージを頂きました。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 塾員メッセージ



### 逢沢 一郎

(衆議院議員／第1期)

37期生の皆さん、早期修了の方も含めて6名の方が塾を巣立って行かれるわけですね。おめでとうございます。松下政経塾に入塾をされて以来、研鑽を重ねてこられたこと、お互いに切磋琢磨をして自ら成長してこられたこと、その全てを卒塾後、日本のため世界のために大きく活かして活躍をいただきたいと思います。塾主の考え方、理念、それがわれわれ松下政経塾に集った塾生、塾員の、まさにエネルギーの源泉、また存在意義そのものです。常にどこにあっても、塾主と向き合いながら日本の未来を切り開いていく、そうした大きな志を微動だにせず活躍をいただくことを心から期待をいたします。

私も引き続き国政の場におります。皆さんとも交流をさらに密にさせていただきながら、理想の日本、世界を目指して努力を続けます。それでは、共に力を合わせて頑張ってみましょう。どうぞよろしくお願いいたします。おめでとうございます。



### 前原 誠司

(衆議院議員／第8期)

皆様、こんにちは。8期生の前原です。卒塾生の皆様、この度はご卒塾おめでとうございます。本来であれば、直接お会いしてお祝いの言葉を述べたかったのですが、いまこのような状況でありますので、メッセージにてご挨拶をさせていただきます。

二つ申し上げたいと思っております。私も卒塾してからもうかなり長くなります。府議会議員が2年半、そして国会議員が26年間、もう30年近く議員をやらせていただいておりますけれども、まさに山あり谷ありであります。しかし、やり続けることに意味があるのではなくて、何をしたいのか、何を成し遂げたいのかということを常に思っていれば、どんな困難でも乗り切れると確信をしておりますし、むしろ人間というのは大変なときにこそ成長する、あるいはやりたいことをしっかりと勉強できる、そのことをぜひまた皆様方に申し上げたいと思います。

もう一つは、これは塾主がおっしゃっていたことでありますけれども、とにかく成功の要諦は成功するまで続けることにあると、やり続けなければ何も成し遂げられないと私は思っております。ぜひ皆様方には志を定めて、しっかりとその目標に向かって頑張りたいと思っています。

最後に、卒塾生には素晴らしい先輩の方々がたくさんおられます。政治、ビジネス、あるいは学術、さまざまな方々とぜひコンタクトを取っていただき、皆様方のこれからの無限の可能性というものを、先輩方とまた協力しながら広げていただければと思っています。これからの頑張り期待您的しております。おめでとうございます。またお会いしましょう。



## 小野寺 五典

(衆議院議員／第 11 期)

ご卒塾、おめでとうございます。11 期生の小野寺五典と申します。私が卒塾したのは、もう 20 数年前になります。皆さんが政経塾に入られた時に覚えた期待、そして卒塾するまで抱えたさまざまな不安、私も同じく感じておりました。ですが、政経塾を卒塾して改めて感じましたのは、やはりこの塾に入って良かったということ。卒塾して社会人としてさまざまな立場で仕事をするにあたり、これから皆さんも思い起こすことになると思います。

今回の卒塾式は、普通の形ではない、新型コロナウイルス対策でこのような形になったと聞いております。9 年前になりますが、東日本大震災、まさかの想定外のことがたくさん起きました。原子力災害も起きました。そして今回は、新型コロナウイルスが世界中でパンデミック、そしてさまざまな経済不安が起きています。そんなときだからこそ、政経塾で学んだ経験、自修自得の心、これを持ってこれからの社会へ大きく羽ばたいていただければと思っています。そして何か困ったことがあったら、私ども先輩を頼っていただければと思っています。

最後に、皆さんを指導された塾の職員の皆さん、そしてご家族の皆さん、多くの皆さんにお祝いを述べながら、皆さんの旅立ちを改めてお祝いしたいと思います。本日はおめでとうございます。



在塾生による送辞

多くの塾員の皆様から  
祝電とお花が届きました。  
有難うございました



式典前、在塾生・スタッフと記念写真

# 卒塾生決意表明



## おの でら さかえ 小野寺 栄 (37期生)

在塾中、関わってくださった全ての皆様に感謝申し上げます。新卒で入塾し、様々なことに挑戦させていただく過程で自分の非力さや未熟さに向き合う4年間でした。松下政経塾で学んだこと全てが私の一生の財産であり、今後の自分の根幹になると確信しています。卒塾後は戦略コンサルタントとして自治体や企業のデジタル改革に携わります。卒塾しても生涯塾生のつもりで、好奇心を持って学び続け、勇気を出して行動し、社会を少しでも幸せにできるようがんばります。今後ともご指導よろしくお願い致します。



## こ か ぶ あきふみ 小甲 顕史 (37期生)

塾の研修・活動におきまして、お世話になりました先輩、職員、全ての関係諸兄姉の皆様へ厚く御礼申し上げます。卒塾を迎える今日、今もって素志に素直に向き合える事は、厳しくも暖かい皆様のご指導のお陰様であることを、改めて感じているところです。



思えば、志とは何か？志のため何をするか？を、自問自答する4年間でありました。

私は、“技術を通じて日本の防衛を支える”との志に基づき、入塾致しましたが、現在はその方向性を見定め、スタートラインに何とか立てた思いです。

今後は、弁理士として、ものづくりの現場にてイノベーションや産業育成に技術の観点から貢献し、日本の最重要資源である“知的財産”を守って行きます。その先に、技術を通じた国造り、国防を担える政治家を視野に入れ、あらゆる困難を克服する意志を忘れることなく、地道に活動して参る所存です。

今後とも、引き続きのご指導ご鞭撻を何卒よろしくお願い致します。



## ひ が ひろと 比嘉 啓登 (37期生) 2019年10月31日付 早期修了

4年間、大変お世話になりました。

卒塾の日を迎えることができたのは支えてくださった皆さまのおかげです。

在塾時、繁栄・平和・幸福を実現するためにいかに取り組んでいくのか、という答えの见えない議論を真剣に考え、自問自答した日々を忘れることは出来ません。

「地元沖縄の産業振興」という理想を掲げ、塾是・塾訓・五誓を唱えるたびに、自らが何のために何をすべきかを問い直し、毎日鼓舞していた一方で、正直に申し上げますと、足元の活動に迷ったり悶々と悩んだこともたくさんありました。そういったときに、研修先でお世話になった方々や、塾員の先輩方、職員、塾生との対話で初心に帰り、自分の行き方はこれなんだ、と勇気を持つ事が出来ました。



卒塾後も、沖縄の産業振興に向けて力を尽くす所存です。日々是新で、一日の積み重ねから繁栄・平和・幸福の理想社会実現に向けて邁進しますので、ご指導の程、どうか宜しく願い申し上げます。



ふくい りか  
**福井 里佳** (37期生) **2019年9月30日付 早期修了**

3年半大変お世話になりました。塾生生活を支えていただいた全ての皆様に心から感謝申し上げます。5年間の銀行員生活を経たからこそ気付いた自分の本当の想い。「困難な状況にある女性の力になりたい。」塾生生活の中で本当にたくさんのことに挑戦をさせていただきました。

そのおかげで特定非営利活動法人 Support for Woman's Happiness (SWH) の理事兼事務局長として団体の立ち上げに関わり、ラオスで障がい者女性の雇用、ブランドの立ち上げを行うことができました。卒塾後は引き続き SWH での活動を続けつつ、一般財団法人活育教育財団でプロジェクトマネージャーとして、また別団体でも様々なプロジェクトの立ち上げ、マネージを行いながら、国際協力と人材育成を両立する活動をしていきます。今後ともご指導のほど宜しくお願い致します。



あらたま けんすけ  
**荒玉 賢佑** (38期生) **2019年9月30日付 早期修了**

故郷の広島県福山市をより元気で魅力あふれるまちにしたいと思い、入塾したことをまだ最近のことに感じます。それは、入塾して現在まで一貫して福山を軸に研修をしてきたからだと思います。政経塾での2年半の間で、より故郷への思いは強くなり、令和2年4月に行われる福山市議会議員選挙に立候補予定のため早期卒塾をさせていただきました。

地域での活動の中でも新型コロナウイルスの被害拡大や皆様の不安をひしひしと感じております。集会の開催が難しい状況ではありますが、市民おひとりおひとりとの対話を大切にする機会と受け止めてお話を聞かせていただいております。

卒塾後も、より素直であり続けたいと心掛け、どんなことから学びを得ようと努力することは変わりません。福山市の発展を通じて、日本の更なる繁栄を志してまいりますので今後ともよろしく願い致します。



たていし けんいち  
**立石 賢一** (39期生)

**2020年3月31日付 早期修了**

早期卒塾のため2年間という短い時間でしたが、大変お世話になりました。また支えてくださり、多くのご助言や導きを与えていただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

新卒で松下政経塾に入塾し、自分の志や想いに真剣に向き合うというのは、辛く大変なこともありましたが、毎日が学びの日々で貴重な時間を過ごすことができ、無事に卒塾の日を迎えることが出来ました。

卒塾後は民間企業で EC サイトのマーケティング業務や商品企画に携わりながら、故郷のみやき町の特産品の販路拡大や知名度向上に向けて尽力する次第です。

地域の資源を最大限に生かしながら、故郷・佐賀県みやき町の持続的な発展が実現できるように全力で取り組みます。今後ともご指導ご鞭撻の程、お願い致します。

